

酒田市少子化総合対策懇話会における意見

【結婚】

- 結婚支援では、1対1のお見合いの方が成功率は高い。
パーティー形式は、一時の盛り上がりで続かないことが多い。
- 婚活イベントには、子どもがいる30代の女性は参加しづらく、悩んでいる方が多い。
- 婚活イベントでは、男性はいくら年をとっていても若い女性に行ってしまう傾向がある。対象年齢を絞った方がいい。
- 「婚活」のイベントとなると参加しづらいため、婚活を匂わせたイベントとして企画している。また、連絡先の交換から始め、すぐには結果を求めない形で進めている。
- 「結婚のため」のイベントにすると参加しづらいため、ボランティア活動や夏祭りの企画など、若者たちが地域活動で集まって、その後も何回か開催するような手法が効果的ではないか。
- 婚活イベントをするうえで経費がかかる。経費を抑えて実施すると参加者からの不満もある。
- 親からすると、近くに息子や娘がいてくれると安心し、自分の子どもを結婚させたがらないのではないか。親向けの対策も必要か。
- 若者（18～39歳）は、なかなか集まらない。若者が集まる場、話す場が作れば、若い人たちの出会いの場にもなる。
- 国の意識調査で、「結婚で重要なもの」の上位が、給料や安定した雇用機会の確保など、経済的な問題にからむものとなっている。
また、既婚率で見ると、年収300万円を境に大きな差があることや、雇用形態別でも、正規雇用と非正規雇用でも大きな違いがある。
結婚までたどり着くには経済的な部分も重要になる。

- 恋愛を待っている人の割合は、女性が7割、男性は6割。
コーディネーターのような、くっつけてくれる人がいるとうまくいく確率が上がるのではないか。
- ひと昔前は、男性の年収600万円、女性は家庭に入って当たり前というのが理想の家庭であった。
今は、男性300万円、女性300万円で合計600万円という家庭。経済的にも半々で、家事も育児も分担することが当たり前ということを、中高生あたりから広く啓蒙していきたい。

【妊娠・出産】

- 不妊治療に対する助成はあるが、全額ではないため経済的負担が大きく、行政の支援をお願いしたい。
体外受精など金銭的にも体力的にも回数が続けられず、断念するケースもある。
- 酒田市内は、産婦人科が少ない。大きい病院では日本海総合病院があるが、個人の病院や医院となると、鶴岡まで行かなければならない。
- 妊娠・出産を考えると、年齢が上がるほど妊娠しづらくなったりはするが、結婚するかどうかは個人の選択で、子どもを持つか持たないか、どのタイミングで子どもを持つかは、特に女性の選択というのが大前提。
- 医学的に、20代前半から30代前半が出産の適齢期。20代前半で結婚した人と40代で結婚した人を比べると、子どものいる割合と子どもの数で大きな違いがあり、晩婚であれば子どもの数が少なくなるとの統計がある。
中学生、高校生、大学生、若い社会人の女性をターゲットにして、正しい妊娠・出産の知識の普及をしていかなければならない。
- 高校や大学などで赤ちゃんに触れ合える機会があって、子どもを欲しいと思う気持ちができるればいい。

【子育て】

- 育児休暇を取得しづらい職場環境であるため、2人目をあきらめるとの話聞く。
- 職場近くの保育園に入れなかったり、週数日のパート勤務であったりと、一時託児を利用する人が増えている。
- 母親の年齢も昔と比べると高くなっており、若い母親とのギャップを感じて話ができない母親もいるため、年齢が近い母親同士を紹介している。
- 「男性も女性も仕事はするし、家庭にも関わる、子育ても一緒に頑張る」という考えの男性がもっと増えて欲しい。
若い男性（中学生のうちから）に対して、家事分担や育児を一緒にやっっていこうといった教育が大事。
- 就学前の子どもや家庭への支援は充実しているが、小学校入学後の学童保育や、中学校・高校の部活動等の送迎の負担等が大きい。
子育て支援をもう少し上の年代まで視野を広げていく必要がある。
- 一人親家庭が増えてきており、経済的に大変な方が多く、全国的にも半数以上が貧困の状態にある。国の制度にはない、思い切った独自の対策を検討してもらいたい。
- 都会に出た人に対して、庄内で子どもを育てていこうとか、子育てしやすい地域だということをもっとアピールできればいい。
特に、女性にとって暮らしやすい、魅力的な地域にしていくことが大事。
- 赤ちゃんとの触れ合い体験で、最初は子どもなんてと思っていた人が、赤ちゃんを抱っこすることで、かわいいと思い、こんな親になりたい、子どもを持ってみたいとの感想を残している。
結婚をすること、子どもを産んで家庭を持つことはこういうことなんだということ、小さなうちからやるのが大切なこと。

- 1人目を出産した後、子どもはもう1人でいいという母親も結構いる。支援の内容をもっと伝えたり、子育てのアドバイスをするなど、子育て支援をもっと充実していきたい。
 - 子どもを育てるのに20年かかるため、行政の施策や支援についても安定的な継続的な取り組みでないと子どもを産み育てる社会にはならない。
-

【その他】

- 少子化対策は、酒田市民みんなでやろうという思いで取り組まないといけない。
- 若い人達が、仕事を頑張って、この地域で生きていこうと思えるような、希望を持てるような、酒田の政策すべてに関わる場所であるので、結婚や子育て支援だけではなくて、総合的な力が試されている。
行政だけではなく、民間と一緒に進めていければいい。